

粉せっけん製造 月産へ軌道乗る

合成洗剤追放の消費者運動支える

舞鶴の「みずなぎ学園」

月産3トンを目指す

舞鶴市の合成洗剤追放運動を支える同市鹿原、社会福祉法人「みずなぎ学園」(藤村友博園長)の粉せっけん製造が軌道に乗り出し、ことしから量産に取り組み、園生の自立更生と、舞鶴湾を汚濁から守る市ぐるみの課題に消費者の協力の輪が広がってきたことが背景としての積りで、

舞鶴湾は湾口が狭く、外海からの潮流が悪い。五十、五十二年には赤潮が大発生し、魚類に大きな被害を出した。その後、市連合婦人会、生活学校、農漁協婦人会、一般家庭などの生活排水と共に大量に流れ込む合成洗剤追放に立ち上がった。粉せっけんは大手メーカーで作市指導員(金)は初めのうち油分が残ったり、湿気を含んで粉にならない苦労を重ねた。一年間は試作品。研究の結果で汚れも良く落ちると好評で注文が伸び、昨年四月から月産一トンを目標にした。市生活相談課による粉せっけん使用の呼びかけ、主婦グループの購入協力で八月以降から需要が大幅に増



粉せっけんの量産と取り組む園生たち
—舞鶴市鹿原、みずなぎ学園で

え、月産平均一・八トにまでこぎつけた。
みずなぎ学園では昨年十二月から舞鶴市在住の保護者宅、職員宅の計九十軒に粉せっけんを置き、製造元にとまらない自主販売を積極化している。これまで粉せっけん製造の作業に当

60. 7. 10. 京都

ペーパーフラワー配り 「交通安全お願い」

舞鶴の国道でみずなぎ学園生

本格的な海水浴シーズンを前に十日、舞鶴市東地区の国道で、障害者がペーパーフラワーを配って交通安全運動に役割、海浜では舞鶴東署の救助訓練がはじまり、安全意识を高めた。



「安全運転を」と手作りの花を贈るみずなぎ学園生

交通安全運動は、同市小倉の国道27号で、近くの精神薄弱者更生授産施設「みずなぎ学園」の園生二十一人と舞鶴東交通安全協会婦人会員四人が参加。国道を通過するドライバーに、一生懸命作った

カキツバタのペーパーフラワー三百三十三本を手渡した。ペーパーフラワーは鮮やかな紫色。若には園生が考えた飲んだら、歩く人」などの標語しおりが付いており、ドライバーは「忙しい時もこの花を見て気を鎮めます」と心温まるプレゼントに喜んでいました。



造花を配って安全運動を呼びかける園生(舞鶴市鹿原で)

▽舞鶴市鹿原、精神薄弱者更生授産施設「みずなぎ学園」(藤村友博園長)が十日、近隣の国道二七号線鹿原バス停付近で、交通安全キャンペーンをした。
▽黄色いたすきを掛けた園生三十一人をはじめ、応援が、着用率は二六%だった。
▽同署は、この日、シートベルトの着用状況も調べた。
鶴東交通安全協会婦人会の本河康子会長ら代表十数人が参加。園生たちが一か月余りかかって作ったペーパーフラワー三百本とチラシを、通行車の運転者に配り、安全運転を呼びかけた。

60. 7. 10. 誌